ライフセービング普及のためのジュニア教育プロジェクト

教育・研究　ボランティア　地域交流　その他

〔代表者〕理学部　２年　**後藤　優季**

連携先

大洗町
大洗サーフライフセービングクラブ

顧問教員

原　口　弥　生　（人文学部　准教授）

参加者

斉　藤　貴　文	（理学部　４年）
神　立　由　希	（人文学部　４年）
岡　村　賢　太	（理学部　４年）
溝　越　彩　乃	（教育学部　３年）
秋川知恵子	（教育学部　３年）
玉城伸之介	（教育学部　３年）
伊　藤　拓　哉	（工学部　３年）
後　藤　優　季	（理学部　２年）
大　塚　正　也	（教育学部　３年）
熊川奈美香	（教育学部　１年）
腰　塚　香　純	（農学部　１年）
小　林　史　和	（工学部　１年）
平　野　翔　太	（理学部　１年）
羽　田　裕　貴	（理学部　１年）
渡　邉　彰　俊	（工学部　１年）

プロジェクトの申請内容

（１）プロジェクトの概要

このプロジェクトは、大洗町と連携し、ライフセービングジュニア教育プロジェクトを行います。ライフセーバーの資格を有するものが、ライフセーバーの監視が行き届く安全な水辺で、地元大洗町の子どもたちとおもいっきり遊びます。子どもたちは遊びのなかから、命の大切さや自然の偉大さ、環境問題、さらに仲間と協力することについて、考え、学ぼうとするプロジェクトです。

（２）連携の方法・内容

大洗町観光協会、ＮＰＯ法人海の大学に協力していただき、大洗町の各小中学校からの参加を募ります。また、大洗サーフライフセービングクラブの公式ホームページ上で大洗町、または茨城県以外の参加者も同時に募ります。さらに、今年度から新たに茨城県内の児童養護施設、４団体をプロジェクトに招待します。実施場所は大洗サーフライフセービングクラブの協力のもと、海水浴期間中の大洗サンビーチ、教育エリアをお借りします。プロジェクトは、本物の海を目の前に、海の知識を教え。海や砂浜でおもいっきり遊んでもらう内容です。

（３）実施計画

大洗サーフライフセービングクラブの海水浴監視活動期間である、７月１７日から８月２２日の間に大洗サンビーチ教育エリアで行います。

（４）期待される成果

子どもたちに海の知識を教えることで、海の事故だけではなく、水辺の事故防止を目指します。さらに、子どもたちにライフセーバー体験をさせることで、命の尊さ、人を救うことについて考えてもらい、「自

分たちにできることは何か」を考えるきっかけづくりになれば、と考えています。

さらに、安全上の問題などで海に来ることがほとんどできない児童施設の子どもたちには、ライフセーバーのいる安全な海でおもいっきり遊んでもらうことで、命の尊さや「自分たちにできることは何か」といった内容だけでなく、自然の偉大さや、なにより自然のなかで遊ぶことのすばらしさを感じてくれるだろうと期待しています。

また、ライフセーバーによるジュニア教育プロジェクトをこのような大規模で行っている浜は少ないので、ジュニア教育プロジェクトが大洗町の観光にＰＲになることも期待します。

プロジェクトの実施概要

このプロジェクトは大洗町と大洗サーフライフセービングクラブと連携して行っている、ジュニア教育プロジェクトです。連携先である大洗サーフライフセービングクラブは、年齢、性別、身体障がいの有無に関係なく、誰もが安心安全に楽しむことができるユニバーサルビーチを目指して活動を続け、2007 年に「内閣府特命担当大臣表彰奨励賞」を受賞致しました。

私たちは子どもたちの水辺の事故を未然に防ぐことはもちろん、仲間との協力、そしてなにより自然の偉大さを知り、海を思いきり楽しんでもらうことを目的としてこのプロジェクトを行っています。さらに、ユニバーサルビーチの理念のもと、県内外の小中学生だけでなく、昨年度から県内の児童養護施設を招待してプロジェクトを行っています。

また、関東最大級のビーチ、安心安全なユニバーサルビーチで行う子供たちへのジュニア教育プロジェクトが、大洗町の観光の目玉になることも期待しています。

プロジェクトの成果報告

このプロジェクトを実施するにあたり、私たちはまず大洗サーフライフセービングクラブの活動に参加し、夏の遊泳期間中にパトロール活動を行いながら、海水浴場内の教育事業エリアをお借りしてプログラムを行いました。

プロジェクトの参加者は大洗町観光協会に協力をいただき、今年度も大洗町全ての小学校、さらに大洗海の大学と連携し、ホームページから県内外の参加者を募りました。また、昨年度から行っている県内児童養護施設の子どもたちを今年度は２団体招待することができました。海に今まで来たことがない子どもたちが多い中、海の楽しさ、自然の偉大さ、仲間と協力することの大切さ、そしてなにより命の重さを知ってもらうことができたと思います。

私たちが行うプロジェクトは天候や気温、参加人数や年齢などに応じてさまざまに変化するプログラムです。今年度は２人で行うプロジェクトから、１００人以上が参加したプロジェクト、さらに１歳から中学生までの年齢層での参加がありました。

地域参画プロジェクトから援助していただいたレスキューボードを使うことで、夏の監視活動を同時に行うため、レスキュー機材を十分にプロジェクトに回すことができなかった以前の状況が改善され、子どもたちによりリアルなレスキューが体験できるプログラムを多く取り入れることができました。また、これまでは安全面の配慮を最

優先していたため、沖まで子どもたちを連れていくことがなかなかできませんでしたが、今年はほぼ全ての子どもたちを自分たちだけでは挑戦することができない足のつかない所までチャレンジさせることもできました。

プログラムを終えるころには、子どもたちは仲間と声を掛け合い、助け合う姿が見られます。元気がないお友達がいたら声をかける、バスや電車でお年寄りに席を譲るなど、身近にある自分にできることを考えることは、レスキューをすること以上に事故を未然に防ぎ、人との繋がりを大切にするライフセービングスピリットを育むことにつながります。この夏出逢った子どもたちには、海で楽しく安全に思い切り遊ぶこと、仲間と助け合うこと、さらには自分の命、周りの人の命の大切さを学ぶきっかけになってくれることを願っています。